

多摩地域の活性化に向けたアプリケーションの開発 —地図とクイズで楽しみながら学ぶ多摩地域の魅力—

Development of applications for the revitalization of the Tama region.
—Attractions of the Tama region learnt while having fun with maps and quizzes—

たまくえすちよん

横井大将¹⁾, 白石藍丸¹⁾, 高橋拓己¹⁾, 山本琢未¹⁾

指導教員 細野繁¹⁾

1) 東京工科大学 コンピュータサイエンス学部 コンピュータサイエンス学部
サービスシステムデザイン研究室

キーワード：自慢, 地域課題, 観光振興, アプリケーション開発, 多摩地域

1. はじめに

私たちは、「多摩エリアのまちづくりアイデアピッチコンテスト」に参加している。このコンテストは、多摩地域を自慢したくなるまちにするためのアイデアを考案し、具体化に向けて検討を行うコンテストである。

現在、私たちは多摩地域の住民でも知らないようなコアな情報をクイズ形式で出題し、多摩地域への関心を高めるアプリケーションの開発を行っている。クイズによって多摩地域への関心を高め、多摩地域への観光を促進する。多摩地域での思い出や魅力を共有していただき、多摩地域の活性化を目指している。

2. 多摩地域の課題

多摩地域の課題として、魅力が地域内外に伝わっていないことが考えられる。私たちは、多摩地域の課題を発見するため、計37名にアンケートを実施し、多摩地域の課題について調査を行った。アンケートの結果、約半数の方が多摩地域の知名度が低いことや多摩地域について詳しく知らないことを課題として挙げた。この結果から、多摩地域の魅力が地域内外に伝わっていないことを課題とし

て設定し、サービスの提案を行う。

3. 提案

私たちは、多摩地域の魅力を発見し、それを多摩地域内外に広く発信するためのアプリケーション開発を目的とする。多摩地域にある多くの魅力を多摩地域内外に発信するため、2つの機能によって実現を目指す。1つ目の機能はクイズ機能である。クイズ機能では、多摩地域に焦点を当て、地域住民でも知らないようなコアな情報をクイズとして出題する。ジャンルは、鉄道、アニメ、ドラマ・映画の3つである。図1のようにクイズが出題され、多摩地域への関心を高め、多摩地域への観光意欲を促進する。2つ目の機能は地図、投稿機能である。投稿機能では、ユーザが多摩地域の魅力や思い出を地図上に投稿でき、他のユーザに対して共有する。この2つの機能により、多摩地域の魅力を地域内外に発信し、多摩地域への関心や自賛、愛着を高める。そして、ユーザの「自慢したい」という顕示欲を刺激し、多摩地域を自慢したくなるまちにしていく。

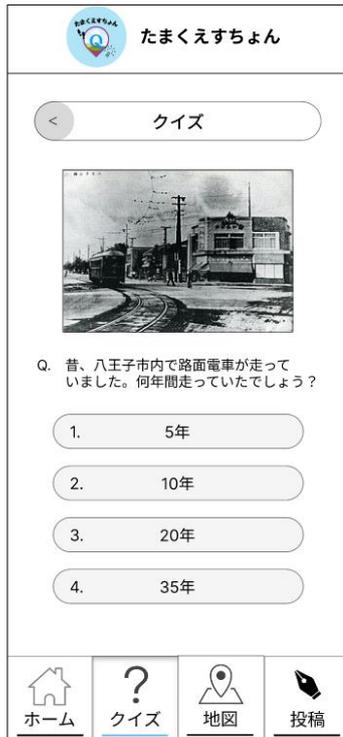


図 1：クイズ機能



図 2：地図機能

4. アプリケーションの実装

アプリケーションの開発は、開発人数 4 人、開発期間は約 5 ヶ月で行う。図 3 にアプリケーションの構成図を示す。本アプリケーションは、Smarty を用いて実装を行う。データベースには MySQL、そ

の操作には PHP を利用する。地図の表示には、オープンソースである Leaflet、オープンデータの OpenStreetMap を用いる。Web サーバーには Apache を利用する。

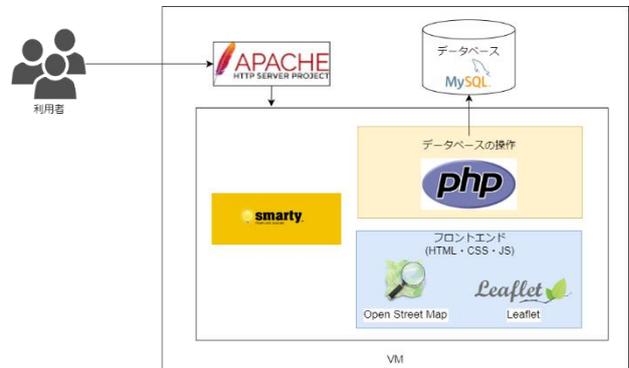


図 3：構成図

5. 評価方法

多摩地域外から多摩地域の大学に通う大学生に向けて、アプリケーションの仕様評価を行う予定である。多摩地域への愛着、自賛の度合いを確認するアンケートを実施する。

6. 今後の展望

現在、アプリケーションを開発しており、データベースと紐づけ、ユーザの投稿をデータとして保管し、地図に表示する機能を開発していく。しかし、課題は残っており、アプリケーションの周知が一番の課題である。今後、アプリケーションの告知を発信力のある方や団体に依頼し、アプリケーションを周知していく必要がある。